

総務文教常任委員会

H23. 9. 20 (火)

午前10時～

第3委員会室

1 開 議

2 日程説明

3 請願審査

(1) 消費税の増税に反対する請願

<討論～採決>

4 議案審査

資産活用プロジェクト

(1) 第8号議案 財産の取得について

<説明～質疑>

企画管理部・会計管理室

(1) 第1号議案 平成23年度亀岡市一般会計補正予算(第2号)

<説明～質疑>

(2) 第9号議案 辺地総合整備計画の変更について

<説明～質疑>

生涯学習部

(1) 第1号議案 平成23年度亀岡市一般会計補正予算(第2号)

<説明～質疑>

総務部

(1) 第1号議案 平成23年度亀岡市一般会計補正予算(第2号)

<説明～質疑>

(2) 第4号議案 亀岡市税条例等の一部を改正する条例の制定について

(3) 第5号議案 亀岡市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について

<説明～質疑>

教育委員会

(1) 第1号議案 平成23年度亀岡市一般会計補正予算(第2号)

<説明～質疑>

(2) 第7号議案 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

<説明～質疑>

5 討論～採決

6 陳情・要望について

- (1) 若狭湾原子力発電所の安全対策を求める申し入れ
- (2) 原子力発電に依存したエネルギー政策の見直しを求める意見書採択を求める陳情書
- (3) 地球防衛宣言及び戦争のない世界実現の為の陳情書

7 その他

- ・ 議会報告会・議会だよりでの委員会報告内容について
- ・ 決算審査について
 - 分科会 9月21日、22日、26日、27日
 - 全体会 9月21日、27日、28日
- ・ 議会報告会でいただいた意見・要望等と回答について
- ・ 次回月例常任委員会について

平23年9月20日

総務文教常任委員会資料

◎ 長尾山市民の森全体整備構想(概要版)

資産活用プロジェクト

長尾山市民の森全体整備構想

= 概要版 =

1. 長尾山市民の森全体整備構想の目的

公社所有地を有効的に活用していくため、公社所有地だけではなく周辺部も包括する俯瞰的な視点で個々の取り組みや事業等を再検証し、具体的な利活用計画を決定するための構想。

2. 整備コンセプト案

里山環境と窯跡群、2つの資源が同じ場所に存在するという貴重な状況を保全活用し、将来にわたって継承させていくことを目標とした構想のキーワードとコンセプトを提案する。

キーワードは…

自然資源としての里山環境 = 人が介在することによる二次的自然

良好な里山環境 = 良好な保安林機能

歴史資源としての窯跡群 = 土・水・火(=松)の山の恵みと循環

自然と文化 = 学びとその継承

市民+行政+α = 協働によるモノ・コトづくり

コンセプトは…

人と山との新たな関係を築こう！

そして

長尾山ににぎわいをよみがえらせよう！

3. 空間整備の方向性 動線とエリア設定

※エリア設定全体図は別図参照

動線整備の方向性

- 開発要件としての幅員確保も視野に入れた、幅員狭小部分の拡幅整備、離合待避区間設置、注意喚起 など
- 安全な合流を視野に入れた、馬堀停車場篠線と市道の交差部の注意喚起 など
- 当面の車両動線の確保として、縦貫道北側市道からの一方向進入～縦貫道南側市道からの一方向退出の喚起
- 「森林公園」への安全かつ高質な利用者の誘導を視野に入れた、サイン設置、街路照明、植栽整備 など
- 市道、公有地外の整備として、急勾配部分の舗装整備と雨水排水整備 など

里山環境保全活用エリア

○土地利用の方向性

公社所有地の全域とし土砂流出防備保安林の機能をより健全なものとするため保安林または砂防指定地での法規制内の活動内容に限定しながら適正な森林の管理を積極的に実行し里山環境を保全する
同時に森林公園として相応しい里山環境の創造を図る

○導入機能

急峻な部分で安全に散策を楽しむための手摺り、転落防止柵、ロープ等の整備
雨水洗掘が激しい部分、急峻な部分に限定した Co 等の耐久資材による散策路整備
設定済みである展望施設周辺の林床整備＝展望の確保

資材、機材運搬のためのモノレールの整備

ヤマザクラやミツバツツジ等、里山環境に適応する花木類、広葉樹林のオーナー制植林 など
良好な森林環境=土砂流出防備機能向上=適正間伐による林床整備と植林の積極的实施

窯跡群保全活用エリア

○土地利用の方向性

計画地に近接する史跡指定予定の窯跡群として

鍋倉第2窯跡群(5基)、鍋倉第3窯跡群(2基)、鍋倉第1窯跡群(7基)の積極的保全を図る
柿ヶ谷窯跡群(1基)、柿ヶ谷奥窯跡群(1基)ほか1基についても保全を図る

○導入機能

エリア設定で示すような窯跡群の面的史跡指定を前提とし保存を原則とする
公開できる可能性がある史跡についてのオープン展示整備の検討
史跡紹介サインの整備 など

利便施設エリア

○土地利用の方向性

計画地のエントランスとして利便施設の設置を図るため
保安林、砂防指定外でかつ史跡指定を受けない場所の取得を進め
駐車場、トイレ等の必要最低限の施設導入を図る

○導入機能

恒久的な施設整備を行う
必要に応じ電気、上下水道、ガスのインフラ整備も検討
駐車場、トイレ、車両通路(作業用車両対応)の整備
トイレについては下水整備不可の場合、バイオトイレ等の導入の検討
上下式車止め等の車両管理ゲート、資材、機材置き場、林内作業の小広場・休憩所 など

啓発エリア

○土地利用の方向性

窯跡群と里山環境の両方を紹介・展示する教育・啓発機能の導入を図るため
保安林、砂防指定外の場所の取得、あるいは史跡指定予定地として取得を進める
史跡指定地内で検討する場合は施設導入にむけた関係機関協議を視野に入れる

○導入機能

恒久的な施設整備を前提とするが史跡指定地内での設定も視野に入れる
里山と窯との関係を紹介するガイダンス施設の整備
ガイダンス施設の視点は…史跡紹介に特化するのではなく、太古からの里山と人と須恵器づくりの関連を紹介
その一方で…防災としての里山を紹介、良好な森林環境づくりにむけた積極的な取り組みへ！
また一方で…長尾山部会による現在の里山の維持管理方法の紹介～賛同者の獲得！
その他 窯レプリカ展示、現在の里山管理・長尾山ウオーク紹介等のパネル展示
総合案内サインの設置 など

4. 協働のありかた

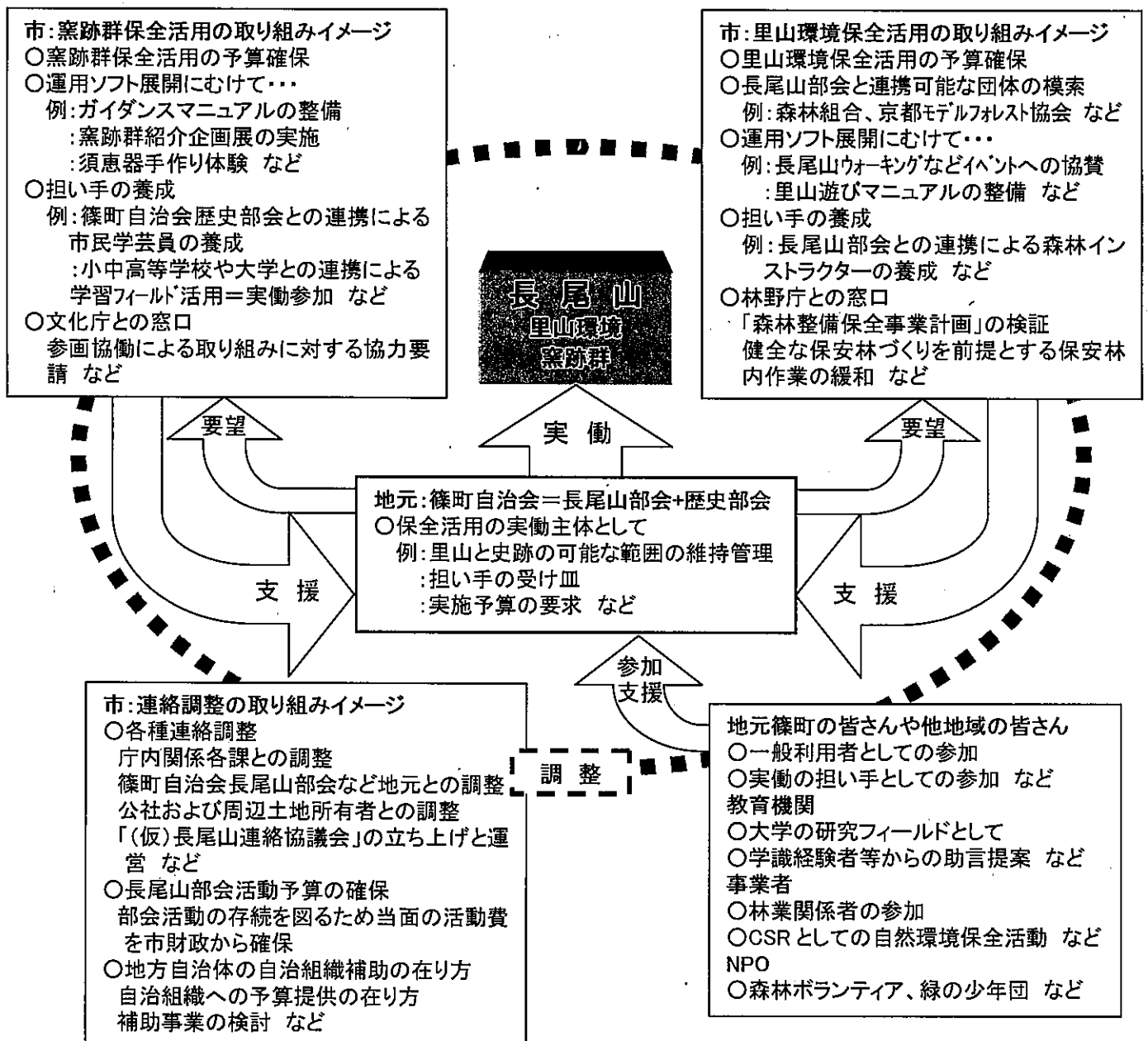
市、地元などの主体別の協働のありかたを検証しイメージ共有する。

テーマは市民+行政+αの参画と協働を前提とした次の2つ

「里山環境の保全活用」と「窯跡群の保全活用」とする。

また、地元と市が円滑に連携して取り組みを進めていくため「(仮)長尾山連絡協議会」を立ち上げることも視野に入れる。

協働の概念図



5. 事業手法

年度別に見た取り組みスキームは次の通り。

◎：主体となって取り組むこと

	公社所有地買い戻しと利便施設エリア、 啓発エリアの活用	窯跡群史跡指定と史跡の保全活用	里山と保安林の保全活用
H 22 年 度	◎本構想の庁内オーソライズ ○史跡指定範囲の検討 ○史跡指定範囲の決定	史跡指定にむけた庁内連携強化 ◎史跡指定範囲の検討 ※文化庁視察 ◎史跡指定範囲の決定	◎保安林内での史跡設定の調整
H 23 年 度	◎長尾山部会活動予算の確保 ※活動存続を前提に予算確保 ○歴史部会への協力打診 ◎（仮）長尾山連絡協議会立ち上げ ◎公社所有地の買い戻し ◎地権者協議～用地買収検討 ※史跡予定範囲外の用地を対象 ◎用地買収～測量 ◎利便施設エリア実施計画＝開発申請 ※動線、駐車場、トイレ、各種インフラ整備等 ◎利便施設エリア整備工事	史跡指定の文化庁事前協議 史跡保全活用にむけた協働の実践 ※本構想から引き継ぎ ◎歴史部会への協力打診 ◎市民学芸員、ボランティアガイド養成 史跡と里山の一体的保全活用の検討 ◎ガイダンス施設計画の検討 ※啓発エリアでの実施を前提 ※史跡保全と紹介ガイダンス方法の検証	里山保全活用にむけた協働の実践 ◎健全な里山と保安林づくりにむけた市民 参加方法の検証と実践 ◎長尾山部会活動予算の確保 ※本構想から引き継ぎ ◎長尾山部会との連携強化 ◎森林インストラクター養成 ◎ガイダンス施設計画の検討 ※里山・保安林保全と紹介ガイダンス方法の検証
H 24 年 度 以 降	◎啓発エリア実施計画 ＝開発申請 ◎啓発エリア整備工事	◎地権者協議～用地買収検討 ◎用地買収～測量 史跡と里山の一体的保全活用の実践 ◎史跡指定～補助事業実施 ◎ガイダンス施設の補助事業化検討 ◎啓発エリア整備工事のうち 史跡関連施設	◎ガイダンス施設の補助事業化検討 ◎啓発エリア整備工事のうち 里山と保安林関連施設
長尾山市民の森の実現			



外観	機種名	測定線種	測定範囲	電源
		検出器		校正核種 備考
	ポケット サーベイメータ PDR-111		0.001 ~ 1.999 $\mu\text{Sv/h}$ 2.00 ~ 19.99 $\mu\text{Sv/h}$ 自動切替	アルカリ単3 × 1
		CsI シンチレータ		¹³⁷ Cs ・高感度測定用 ・AEM™機能付き※ ・50keV～の γ 線を測定 ・質量220g ・警報機能付き

PDM-122は、ポケットに差して使用できる高感度の γ (X)線線量計で、デジタル表示の採用により容易に積算線量当量を読み取ることができ、個人被ばく(1cm線量当量)の測定に最適です。

また、線量当量率も表示可能です。従来型比2/3(長さ)の小型化を実現しました。

注) X線は管電圧100KV以下は測定できません。

特 長

■マイドーズミニがさらにミニになりました。

■ γ 線による個人被ばく測定用

■1 μSv ～10Svと高感度プラス広い測定範囲

■1 $\mu\text{Sv/h}$ ～1Sv/hの線量当量率も測定可能

■見やすいデジタル液晶表示を採用

■電源ONでデータリセット

☆X線用はPDM-127をご用意しています。

仕 様

測 定 線 種	γ (X)線(40keV～)
検 出 器	半導体検出器
エ ネ ル ギ ー 特 性	50keV～1.5MeV $\pm 30\%$ 以内(¹³⁷ Cs、ファントムを用いて校正)
測 定 範 囲	1 μSv ～10Sv、1 $\mu\text{Sv/h}$ ～1Sv/h
積 算 指 示 誤 差	$\pm 10\%$ 以内(10 μSv ～10Sv)
線 量 率 直 線 性	$\pm 20\%$ 以内(10 $\mu\text{Sv/h}$ ～1Sv/h)
表 示	4桁液晶表示、単位、電池残量
イ ミ ュ ニ テ ィ 特 性	0.15～200MHz:150V/m、200～1000MHz:100V/m(IEC61326-1:2006)
そ の 他	データリセット、バッテリーダウン表示、オーバフロー表示
使用温・湿度範囲	-10～+50℃、90%RH以下(結露なし)
電 源	コイン形リチウム電池(CR2450B) 連続で約700時間使用可能

組 成

